

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（1年男子）

指導者 渡邊貴久

1 題材名 ことばをあつめよう

2 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子どもは、補聴器を装用し、主に聴覚口話法により他者とのコミュニケーションをとっている。これまでに、傾聴についての基本的な態度を養うための学習や時と場に合ったあいさつをする学習、「絵カード」などを使い物の名前を知る学習をしてきた。傾聴については、話す相手の口の形を見ろという基本的なことを学習したが、まだ身に付いているとは言えず、継続して指導をしている。あいさつは、促されると時と場に合ったあいさつができるようになってきている。また、「絵カード」について、何を示しているのか答えることのできるカード数も増えており、絵カードの名前を答える活動に意欲的である。しかし、名詞としての物の名前は知っているが、物の使い方や、物を使う際の動きの言葉についての理解は十分とは言えない。

そこで本題材では、傾聴態度を確認して教師の話聞き、文字を書く場面を設定し、よりよい傾聴態度を身に付けることができるようにする。また、題材を通して、絵辞典を活用して言葉を調べる活動を設定し、絵辞典を積極的に活用しようとする態度を養いたい。さらに「絵カード」とそれに合う「動きの言葉カード」を組み合わせた言葉を実際に動作化したりすることで語いを増やすことができるようにしたい。

指導に当たっては、まず、分からない言葉や難しい言葉を調べる方法として絵辞典があることを知り、教師と一緒に調べ、調べた言葉に付箋を貼ることで、語いが増えることを楽しみながら、たくさん言葉を知りたいという意欲をもつことができるようにする。次に、子どもが興味をもっている「探検をする」という要素を取り入れた題材の構成を工夫することで、子どもが意欲をもって取り組むことができるようにする。また、各時間は、子どもの身近な日常生活に関する「動物」、「運動」、「衣服」、「食べ物」に関する物と、それらに関係する動きを表す言葉を設定することで、子どもが状況や動作を思い浮かべることができるようにする。活動では、話す相手の口を見ながら、教師が発音する「絵カード」に表された動きの言葉を聞き取り、その言葉を書くようにすることで、傾聴についての基本的な態度を養うことができるようにする。そして、「絵カード」に書いた言葉を教師と一緒に絵辞典で調べることで、絵辞典のイラストや説明で言葉の意味を知ることができるようにする。その際に、調べた言葉のページに付箋を貼り付けていくことで、自分が調べて知った語いが増えていく喜びを感じることができるようにする。調べることができた言葉の「絵カード」と「動きの言葉カード」を組み合わせた言葉を実際に動作化したりして確認することで、動き方が分かり、言葉を実際の場面で使うことができるようにする。題材のまとめでは、本題材で調べた言葉を使うゲームをすることで、学習した言葉への理解を深めることができるようにする。

このような学習を通して、在籍校での学校生活や、家庭での日常生活の中で分からない言葉を教師や保護者と調べることができるようになることを考える。また、絵辞典への付箋の数が増えることで、自分が知った語いが増えていることを感じ、もっと言葉を調べたい、知りたいという気持ちが育っていくものとする。

(2) 題材の目標

- 教師が話す言葉を、教師の口の形を見ながら聞くことができる。
- 言葉を組み合わせたり、クイズをしたりする活動を楽しみながら取り組むことができる。
- 「絵カード」とそれに合う「動きの言葉カード」を積極的に活用して組み合わせたり、組み合わせた言葉を実際に動作化したりすることで語いを増やすことができる。

(3) 子どもの実態

教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを言葉で相手に伝えることができること。 相手の話が聞き取れなかった言葉や、意味の分からない言葉について、相手に聞き返したり尋ねたりすることができること。 				
環境の把握 (聴力)		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">右</td> <td style="width: 50%;">左</td> </tr> <tr> <td>補聴器装用時 49db</td> <td>補聴器装用時 44db</td> </tr> </table>	右	左	補聴器装用時 49db	補聴器装用時 44db
右	左					
補聴器装用時 49db	補聴器装用時 44db					
コミュニケーション	語い・発音	<ul style="list-style-type: none"> 語いが増えつつあり、日常生活で使う物の名前については答えることができることが多い。しかし、その物の使い方や、使い方に関する動きの言葉については知らないことが多い。 50音は読むことができるが、促音・拗音がある単語を読めなかったり、発声を苦手にしていたりすることがある。 発音は聞き取りやすくなりつつあるが、まだ不明瞭である。その中でもサ行の発音を苦手としている。 				
	人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやあいさつなど日常のコミュニケーションの中で、恥ずかしさから視線をそらすことがある。 集団の中では、周りの人から声を掛けられることが多く、自分から相手に働き掛けることは少ない。 				
	傾聴態度	<ul style="list-style-type: none"> 話をする相手の方を見て、話を聞こうとする態度が少しずつ育ってきている。 興味のある内容については、聞き取れなかった場合に相手の目をじっと見る反応を返すことが、徐々にではあるができるようになってきた。 				
	言語の形成	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを使っての簡単な問いに対して物の名前を表すものであれば、ほぼ答えることができるが、不明瞭な言葉が多く相手に伝わりにくいときがある。(例) 消防車→とうぼうた 身近な出来事を2語程度の文を2～3個つなげて文章にして書くことができる。 				
行動観察から (認知の特性)		<ul style="list-style-type: none"> 聞いたことや自分が答えたことを書く際に、面倒くさかったり、書くことを途中でやめたりすることがある。 自分の思い通りにならなかった場合、周りの言葉を受け入れられず、物に当たったり、声を上げて涙を流したりすることがある。 				

3 指導に当たって（研究との関連）

【「思考活動」を促す学習指導】

- 「つかむ・見通す」過程（思考場面1）では、前時の活動で使った「絵カード」と「動きの言葉カード」を使った問題を出題する。そして、前時の活動を想起できるようにすることで、本時においても言葉を組み合わせるとい活動に取り組むことへの意識を高める。
- 「活動する」過程（思考場面2）では、教師が提示した動きを表す「絵カード」を見て、絵辞典で調べた言葉をカードに書き、「絵カード」と「動きの言葉カード」を組み合わせることで、楽しみながら語いを増やす活動ができるようにする。また、実際に組み合わせた言葉を動作化して表現することで、学習した言葉を使うことができるようにする。
- 「振り返る」過程（思考場面3）では、絵辞典の付箋の枚数やポイントシールの枚数を振り返ることで、語いを増やすことができたという達成感を高めることができるようにする。そして、本時で学習した「絵カード」や自作した「動きの言葉カード」を家庭に持ち帰って、実際に使うことができるかどうか保護者に確認してもらうことで、日常生活においても学習した言葉を使っていこうとする意識を高めることができるようにする。

【評価資料を生かした指導】

- 理解が難しい言葉については評価資料でチェックし、次時の学習の導入時に重点的に復習することで、理解を深めることができるようにする。また、評価資料での見取りは家庭にも伝え、家庭でも保護者と取り組むことができるようにする。

4 指導計画（全6時間）

家庭や在籍校との連携

次	時間	指導のねらいと主な活動内容
一 次	1	「絵辞典楽しいな」 【指導のねらい】 題材全体の流れが分かり、意欲をもって学習に取り組むことができる。また、絵辞典の使い方を知り、使う楽しさを味わいながら教師と一緒に調べることができる。 【活動内容】 1 題材マップを使って、どのような学習をするか知る。 2 絵辞典の使い方を知る。（見方、調べ方、付箋紙の貼り方について） 3 絵辞典を使って言葉を調べる。
	1	「言葉探検に行こう①（動物島編）」 【指導のねらい】 動物島で、動物の名称、様子や動きに関する言葉を調べて、語いを増やすことができる。 【活動内容】 1 前時で知った言葉の確認をする。 2 本時の場面を確認し、言葉探検をする。 3 言葉くっつきゲームをする。
二 次	1	「言葉探検に行こう②（スポーツ島編）」 【指導のねらい】 スポーツ島で、運動の名称や動きに関する言葉を調べて動作化し、語いを増やすことができる。 【活動内容】 1 前時で知った言葉の確認をする。 2 本時の場面を確認し、言葉探検をする。 3 言葉くっつきゲームをする。
	1	「言葉探検に行こう③（洋服島編）」 【指導のねらい】 洋服島で、衣服の名称やそれに関する言葉を調べて動作化し、語いを増やすことができる。 【活動内容】 1 前時で知った言葉の確認をする。 2 本時の場面を確認し、言葉探検をする。 3 言葉くっつきゲームをする。
	1 （本時）	「言葉探検に行こう④（レストラン島編）」 【指導のねらい】 レストラン島で、食べ物や食生活に関する言葉を調べて動作化し、語いを増やすことができる。 【活動内容】 1 前時で知った言葉の確認をする。 2 本時の場面を確認し、言葉探検をする。 3 言葉くっつきゲームをする。
三 次	1	「言葉探検ゲームをしよう」 【指導のねらい】 これまでに学習してきた言葉を使うことができるか、確認することができる。 【活動内容】 1 これまでに調べてきた言葉を、絵辞典の付箋が付いたページで確認する。 2 言葉くっつきゲームをする。 3 題材の振り返りをする。

目 標
【家庭】 ○ 通級の時間に学習した言葉を家族に話すことができる。 【在籍学級】 ○ 通級の時間に学習した言葉を担任に伝えることができる。

【家庭】 （第1週～6週） ○ 通級指導教室で使った「絵カード」と、自作した「動きの言葉カード」を家庭に持ち帰るようにし、そのカードを組み合わせる活動を保護者と一緒に行うようにする。その際、「できたかなカード」を準備し、保護者にできたところを確認してもらう。 【在籍学級】 （第1週～第6週） ○ 子どもが通級指導教室で学習した言葉を意図的に使って、子どもと会話をしてもらう。

5 本 時 (5 / 6)

(1) 目 標

- 食べ物に関する言葉を見付け、食べ物に関する物の名前と動きを表す言葉を組み合わせたり、動作化したりする活動を通して、言葉と言葉がつながることを知ることができる。
- 分からない言葉があったときには、「たすけてカード」により意思表示をし、教師と一緒に絵辞典を使って調べることができる。

※ 「思考場面」における「思考活動」とその「材料」及び「視点」については、評価資料に明記

(2) 展 開

☆はICT活用の留意点

過程(分)	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
活動前	◎ 補聴器の点検をする。 ・ 本体やイヤーマールドの汚れ、電池残量のチェック	○ イヤーマールドをきれいに拭いたり、電池の消耗の程度を子どもと一緒に確かめたりすることで、補聴器を良い状態に保つことができるようにする。
つかむ・見通す (10)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習について振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ことばをくっつけて、たからものをもらおう。</div> (1) めあてを声に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。	○ 「できたかなカード」(家庭との連携)を確認し、家庭でも取り組むことができたことを称賛することで、活動への意欲を高める。 ○ 題材マップを提示することで、これまでの活動を想起することができるようにする。 ○ 絵辞典に貼られた付箋の数を確認することで、言葉探検への意欲を高める。 ○ 題材マップから、本時で学習する言葉のジャンル「食事」を確認することができる。 ○ 前時で学習した物の名前と、動きを表す言葉をくっつけることで前時の学習を振り返り、「言葉をくっつける」という意識をもつことができるようにする。(想起) ○ 「ことば」と「くっつけて」だけをワークシートの()の中を書くようにすることで、めあてを意識することができるようにする。 ○ 言葉探検の手順を常時提示しておくことで、確認しながら活動できるようにする。 ☆ アニメーションや効果音を加えたデジタルコンテンツにより問題の提示を行い、イメージすることができるようにする。
活動する (30)	4 言葉探検をする。 (1) 言葉探検の手順を確認する。 ア 探検する島で食べることにする物を探る。 イ 動画の動きを言葉にして書く。 ウ 分からない言葉は絵辞典で調べる。 エ 言葉くっつきゲームをする。 オ 物の名前と動きの言葉をくっつける。それができたらシールをもらう。 カ ポイントシール5枚で宝物をもらう。 (2) 言葉探検のルールを確認する。 ア 名前や意味が分からない言葉があったときには、「たすけて」カードを出す。 イ 絵辞典の調べた言葉のところに付箋を貼る。 (3) 言葉探検をする。	○ 言葉探検の中で相手を見て聞くことができないときには、教師が自分の口を指し示すことで、口形を見ながら聞くことができるようにする。 ○ 意味が分からない言葉があったときには「たすけてカード」を提示することで、分からないという意思表示をすることができるようにする。 ○ 絵辞典で言葉を調べた際には付箋を貼ることで、言葉探検の活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ 「絵カード」と「動きの言葉カード」を使った言葉くっつきゲームをすることで、言葉の意味を考えながら組み合わせることができるようにする。 ○ 間違った言葉の組み合わせを意図的に提示することで、正しい言葉の組み合わせと比べながら、言葉の意味を考えることができるようにする。(比較) ○ 組み合わせた言葉を動作化することで、言葉の理解を深めることができるようにする。 ○ 言葉を組み合わせることができたらポイントシールを貼り、それが5枚になると宝物がもらえるという設定をすることで、活動への意欲を高めることができるようにする。
振り返る (5)	5 本時の学習について振り返る。 6 次時の活動について知る。	○ 絵辞典の付箋の数やポイントシールの枚数を振り返ることで、これまで知らなかった言葉を知ることができたという達成感を高めることができるようにする。(想起・比較) ○ 学習で使用したカードを持ち帰り、家庭でも再度学習することができるようにし、言葉の理解を深めることができるようにする。

自立活動「ことばをあつめよう」(5/6)	
個人目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食べ物に関する言葉を見付け、食べ物に関する物の名前と動きを表す言葉を組み合わせたり、動作化したりする活動を通して、言葉と言葉がつながることを知ることができる。 ○ 分からない言葉があるときには、「たすけてかあど」により意思表示をし、教師と一緒に絵辞典を使って調べることができる。
評価項目	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「絵カード」と「動きの言葉カード」を使って、前時の活動を想起することで、本時においても「言葉」を「くっつける」という意識をもつことができたか。 ○ 提示された「絵カード」や「動きの言葉カード」を比べ、言葉の意味を考えながら言葉をくっつけることができたか。 ○ 絵辞典の付箋の数やポイントシールの枚数を確認することで、前時よりも語いを増やすことができたことに気付くことができたか。 	
過程	<p>個人目標を達成するための手立て ■：材料 〈 〉：視点</p>
つかむ・見通す	<p>思考場面1 〈言葉をくっつけることへの意識をもつことができるように〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材マップにより、これまでの学習を振り返ることができるようにする。 ・ 絵辞典に貼られた付箋の数を確認することにより、目標をもつことができるようにする。 ・ 題材マップにより、本時で学習する言葉のジャンル「食事」を確認することができるようにする。 <p>「絵カード」、「動きの言葉カード」(前時で学習した言葉)</p> <p>「絵カード」と「動きの言葉カード」をつなげる</p> <p>「この絵に合う言葉はどれかな。」「この言葉はくつつくかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあてをワークシートに書き写す際に、「ことば」と「くつつく」を記入することができるようにする。
	手立て
活動する	<p>思考場面2 〈言葉をくっつけることへの意識を高めることができるように〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アニメーションや効果音を加えたデジタルコンテンツにより問題の提示をし、活動への意欲を高めることができるようにする。 ・ 言葉探検の手順を常時提示しておくことで、活動への見通しをもち、確認しながら活動ができるようにする。 ・ 言葉探検の手順を基に教師と一緒に1問実際にやりながら確認することで、見通しをもって活動することができるようにする。 ・ 絵辞典で言葉を調べた際には付箋を貼ることで、言葉を集める活動に意欲をもって取り組むことができるようにする。 <p>「絵カード」、「動きの言葉カード」(本時で学習した言葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違った言葉の組み合わせを意図的に提示することで、正しい言葉の組み合わせと比べながら、言葉の意味を考えることができるようにする。 <p>「あれ、何か変じゃない。」「言葉が入れ替わったらどうなるかな。」</p>
	手立て
振り返る	<p>思考場面3 〈語いを増やすことへの意識を継続することができるように〉</p> <p>絵辞典の付箋の数、ポイントシールの枚数</p> <p>「付箋がどれだけ増えたかな。」「初めて知った言葉はあったかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習で使用したカードを家庭でも活用し、言葉の理解を深めることができるようにする。
	手立て
評価	
次の目標	